

# 教えて！ドクター

## 加齢による眼病（飛蚊症）編 Vol.4

目の前に蚊やゴミのような物が現れる飛蚊症。何かほかの病気の症状として現れているかもしれません。



医学博士 川久保 洋 先生

1959年生まれ。川久保眼科院長  
さいたま市立病院眼科医長  
駿河台日大病院眼科外来医長を経て、現在に至る。  
現在、駿河台日大病院眼科兼任講師  
日本眼科学会専門医

### 目の前に黒いものが フラフラ飛んで見えます

ある日突然、あるいはいつの間にか目の前に蚊やゴミのような物が飛んで見えたことはありませんか。これが飛蚊症（ひぶんしょう）です。飛蚊症は、あらゆる年齢層に起こりますが、高齢者で、特に近視が強い人ほど多くみられ、多くの場合は心配ありません。

飛蚊症は、蚊が飛んでいるように見えることから名づけられましたが、実際には糸くず、髪の毛、水玉、黒いすず、輪など見え方の表現は様々で、数も一個から数個、時には多数のことがあります。明るい背景で読書したり、青空や白い壁などを見た時に著明に現れ、目を動かすと一緒に動いて見えます。

飛蚊症の原因は、治療を必要としない「生理的」なものが多く、稀に治療をしないと視機能に影響をきたす「病的」なものに分かれます。そもそも眼球内は、卵の白身に似た無色透明なゼリー状なもので満たされています。これを硝子体と呼びます。硝子体は99%以上水で、わずかに繊維を含みます。加齢と

ともにゼリー状の硝子体が液体に変わり、ゲル成分の繊維は濃縮し混濁されます。（若い人でも近視の強い人は、ゲル状内硝子体繊維はもともと粗くなっています。この状態で明るい光が入ると、網膜にその繊維の影が映る現象が飛蚊症です。）

飛蚊症は、完全に消えることはなく、慣れてくると気にならなくなります。

### 病気のサインの 可能性もあるので注意

しかし、気をつけなくてはならないのは、飛蚊症は目の病気の前兆であることがあります。網膜裂孔は網膜に穴があき、その網膜の破片が眼内に散布します。典型的なのは、網膜が引き裂かれる時にピカピカ光を感じ（光視症）、引き続き多数の飛蚊症が出現します。数日放置すると急に黒いカーテンが落ちてくるように視野が欠損します。これが網膜剥離で、視力、視野に影響するので緊急手術の適応があります。糖尿病、高血圧や外傷などで硝子体中に出血が出現した場合は、「目の前に黒い墨

が垂れる」と表現することが多いです。また、ぶどう膜炎では、硝子体に炎症をきたし、硝子体が濁るため飛蚊症を自覚します。多くは、羞明感（まぶしい）、眼痛、霧視、充血を伴うことが多いです。

### 飛蚊症を自覚したら まず眼科受診

まず眼科受診

飛蚊症は、自覚症状に乏しく、視力低下や痛みを伴わないことが多いですが、中には網膜剥離や眼底出血など重大な疾病が隠れており、放置すれば失明につながります。飛蚊症を自覚したら、まず近視あるいは加齢による硝子体の変化（生理的飛蚊症）なのか、病的飛蚊症なのかを調べるために、眼科専門医での診察をおすすめします。

#### 注意を要する飛蚊症

- 光視症後の飛蚊症（網膜裂孔）
- 黒い墨が垂れた（硝子体出血）
- 羞明感、眼痛を伴う（ぶどう膜炎）
- 視力低下、視野欠損（眼底出血、網膜剥離）
- 飛蚊症がひどくなった

監修…川久保眼科院長 川久保洋

## 川久保眼科

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー（角膜矯正療法）、コンタクトレンズの処方



※JR京浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

- 診療時間 午前 9:00～12:00 午後 14:00～18:00
- 休診日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

### 川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F  
TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp